

## 第 8 回学会報告記 (第 64 回アメリカ心臓学会学術集会 ACC 2015)

2015 年 3 月 14 日～3 月 16 日の 3 日間、ACC.15 (アメリカ心臓病学会学術集会) がアメリカのサンディエゴで開催されました。循環器の大規模な国際学会の 1 つであり、臨床心臓病学の研究発表・教育の場として世界から注目されている学会の 1 つです。

今回は上松副院長、増田先生、岡本先生、南都先生、神田先生、白記先生、私 (辻村) の 7 人での参加となりました。

### 1 出発～サンディエゴ到着

---

学会は 3 月 14 日から開催されるため、3 月 13 日午前 11 時、当院 (兵庫県尼崎市) を出発しました。伊丹空港→成田空港→サンフランシスコ空港→サンディエゴ空港と飛行機を 3 回乗り継ぎ、計 12 時間のフライトで無事サンディエゴに到着しました。到着時、現地時間で 3 月 13 日午後 3 時頃 (時差 : 日本より 16 時間遅れ) であり、約 20 時間かけての移動となりました。サンディエゴは、気温 25℃前後と温暖で過ごしやすい気候でした。天気も良く、南国に来たような感じでした。

サンフランシスコ空港にて（乗り継ぎのため移動中）



成田～サンフランシスコまで9時間のフライトで若干の疲労を感じますが、機内では、各々論文を読んだり、映画を見たりと快適な空の旅を過ごすことができました。私も半沢直樹に夢中になり、あっという間の9時間でした。

サンディエゴの街並み



きれいな青空と街並み。南国リゾートみたいです。

## 2 会場

---

学会会場は、サンディエゴの海沿いに位置する San Diego Convention Center でした。それぞれが滞在したホテルから徒歩圏内で、移動も非常に便利でした。会場では Live 中継、口述発表、教育セッション、ポスター、企業ブースなど多数行われていました。



会場 (サンディエゴ コンベンション センター)

写真では収まりきらないくらい横長でした。きれいな建物です。

### 3 発表

---

今回、当院からはポスター発表を中心に9演題の発表となりました。

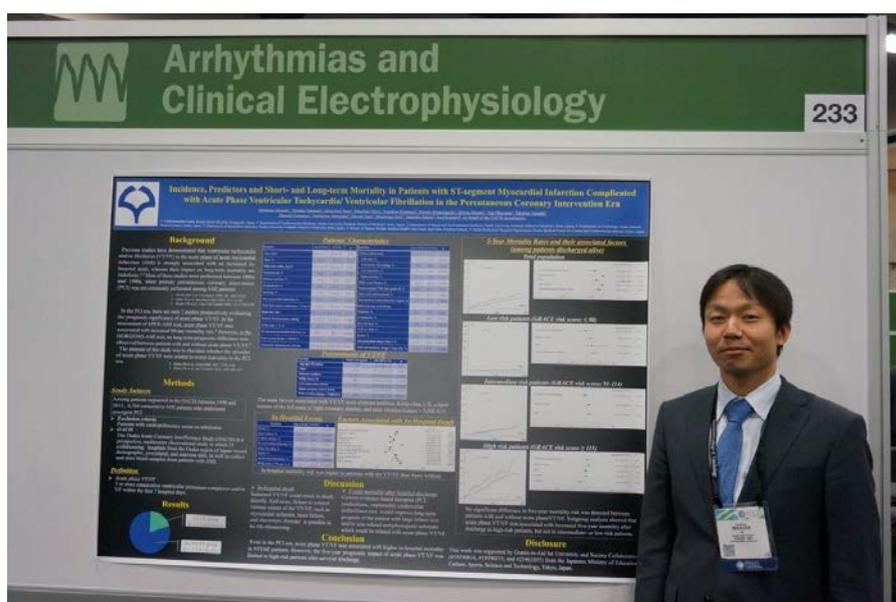
飯田 修 先生

「Predictors of Delayed Wound Healing After Endovascular Therapy in Patients with Critical Limb Ischemia Due to Isolated Infrapopliteal Lesions」

「Three-Year Outcomes in the Olive Registry: A Prospective Multi-Center Study in Patients with Clinical Limb Ischemia」

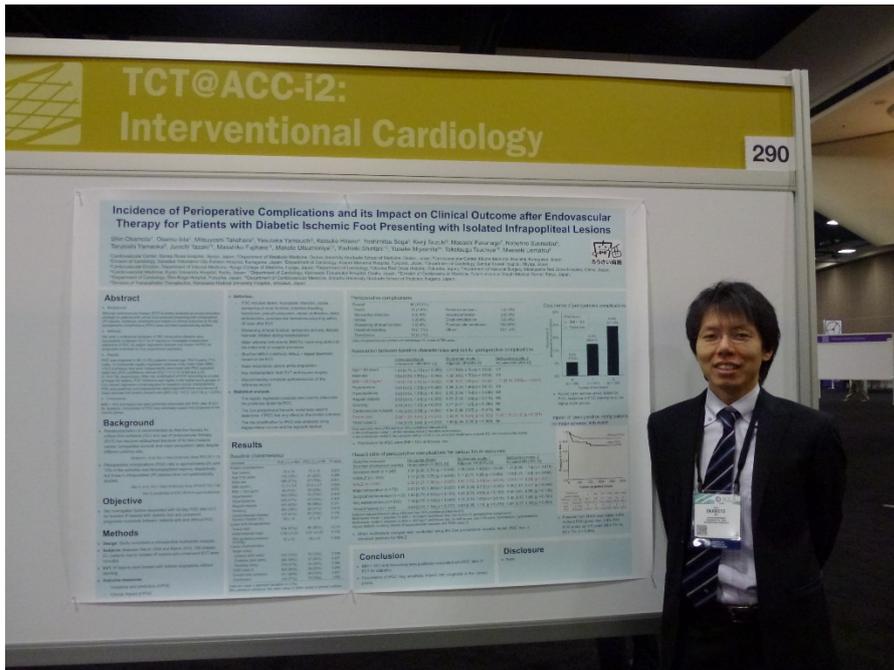
増田 正晴 先生

「Incidence, Predictors and Short- and Long-Term Mortality in Patients with ST-Segment Myocardial Infarction Complicated with Acute Phase Ventricular Tachycardia/ Ventricular Fibrillation in the Percutaneous Coronary Intervention Era」



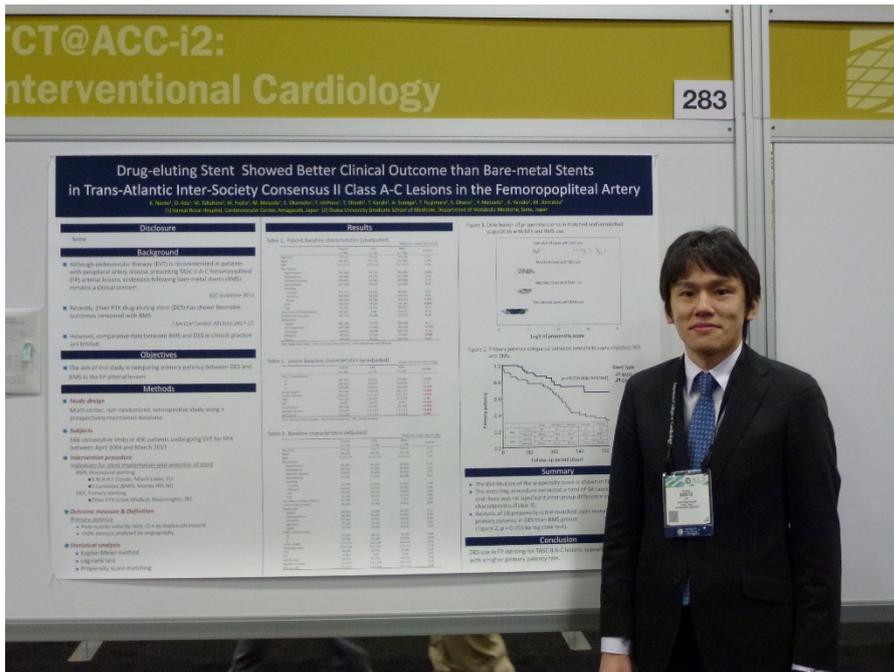
岡本 慎 先生

# 「Incidence of Perioperative Complications and its Impact on Clinical Outcome After Endovascular Therapy for Patients with Diabetic Ischemic Foot Presenting with Isolated Infrapopliteal Lesions」



南都 清範 先生

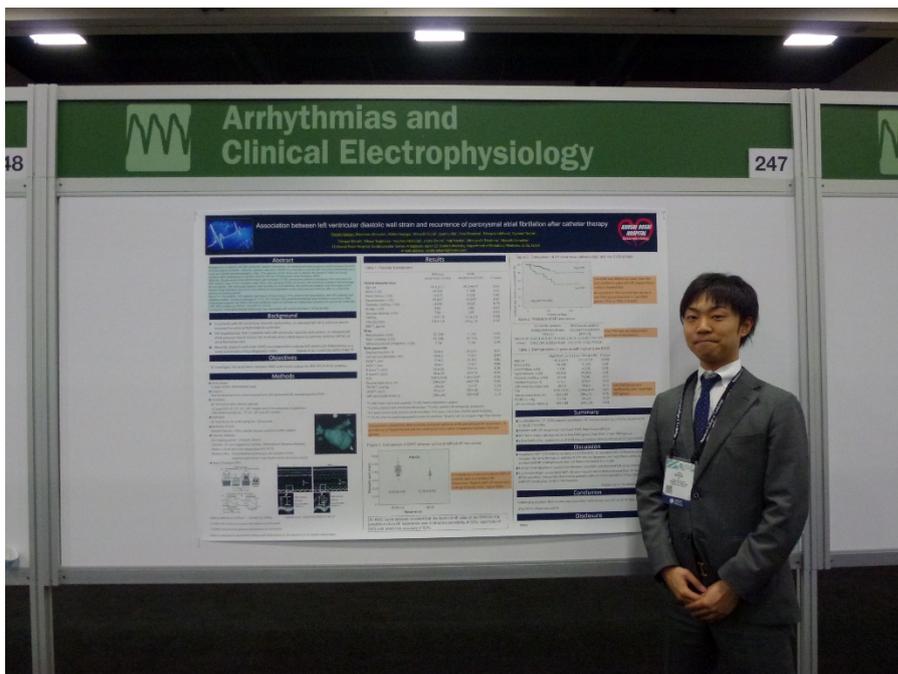
# 「Drug-Eluting Stent Showed Better Clinical Outcome than Bare-Metal Stents in Trans-Atlantic Inter-Society Consensus II Class A-C Lesions in the Femoropopliteal Artery」



神田 貴史 先生

「Association Between Left Ventricular Diastolic Wall Strain and Recurrence of Atrial

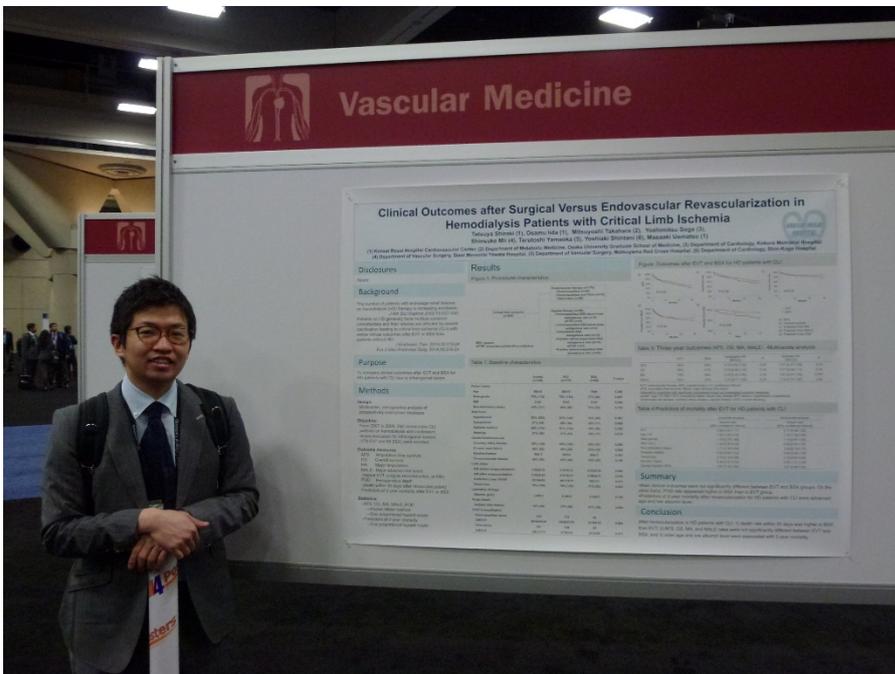
Fibrillation in Patients Undergoing Catheter Ablation of Paroxysmal Atrial Fibrillation」



白記 達也 先生

「Predictors of 2-Year Mortality After Surgical and Endovascular Revascularization for Infrainguinal Artery Disease in Hemodialysis Patients with Critical Limb Ischemia」

「Geriatric Nutritional Risk Index Predicts 2-Year Mortality in Patients with Critical Limb Ischemia Following Endovascular Therapy」



私 (辻村 卓也)

## 「SYNTAX Score is an Independent Predictor of 4-Year Mortality in Patients with Peripheral Artery Disease」



私自身、初の海外でのポスター発表でした。ポスター会場だけでもこれまでに経験のないくらい大規模な会場で驚きましたが、他の先輩方と違い、私のポスター提示場所は隅っこで、人通りも少なめでした。海外の方と英語で熱い議論とはいきませんでした。興味を持って見て下さる方もいらして少しほっとしました。世界各国から様々な興味深い発表がされており、大変刺激を受けました。特に EVT 施行後のステント血栓症についての発表は、現在自分も興味を持っている内容であり、刺激を受けました。当院でのデータと大きな相違はない印象であり、今後さらに詰めていこうと思える良いきっかけになりました。

## 4 学会後活動

---

朝から学会に参加し、夕以降はサンディエゴの街を観光しました。

サンディエゴはカリフォルニア発祥の地と言われ、メキシコ国境から車でわずか 20 分、ス

ペイン領、メキシコ領であった歴史的背景がいまってエキゾチックな雰囲気漂います。

会場近くにはダウンタウンのガスランプクォーターと呼ばれるレストラン・ナイトクラブ・

バーなどが集まる商業地域があり、昼夜問わず賑やかでした。気づけばホテル前の道路が完

全に封鎖され、音楽イベントが夜通しガンガン行われたり、明け方は決まってパトカーのサ

イレンが鳴り響いたりしていましたが、決して治安は悪くありませんでした。人も親切で、

ホテルも快適で、初サンディエゴは非常に過ごしやすかった印象です。

また、今年も小倉記念病院の先生と食事を一緒にさせて頂く機会があり、臨床や研究などい

ろんな話を聞けて有意義な時間となりました。

夕食 (1 日目)



男 6 人でチーズフォンデュの店へ。お好み焼き感覚でこしらえてくれました。

チーズにいろいろな味付けがされ、めちゃくちゃ美味でした。

夕食 (2 日目) の帰り道 : 白記先生



楽しそうです。

## 夕食3日目



小倉記念病院の先生方との集合写真です。

来年もまたこうやって参加できるように頑張りたいものです。

## 5 まとめ

---

サンディエゴでの国際学会でありましたが、治安も良く、居心地は本当によかったです。短

い期間でしたが刺激にも満ちた海外学会となりました。来年はシカゴでの開催です。

これからもより良い医療を提供できるよう日々努力し、また臨床から得た新たな知見・情報

を当院から発信できるよう、私も微力ながら日々精進していこうと思います。

以上、関西労災病院循環器内科より ACC.15 の学会報告をさせて頂きました。